

令和4年度第1回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議概要

- 日 時 令和4年9月21日(木)午前10時～12時
- 会 場 鶴岡市役所 6階大会議室
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 15名
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 27名
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0人

(午前10時 開会)

1 開会 (全体進行:コミュニティ推進課長)

2 挨拶 (委員長)

今年に入ってから、特にこの夏は、県内でも大きな災害が発生したが、庄内地域は大きな被害はなかったと認識している。

一方、感染症も新しい段階に移ったが、市民感覚としては、難しい課題が山積したり、あるいは、困難な状況が深まっている方もいらっしゃる反面、イベントや地域活動はかなり活発化しており、以前とは異なる形で、皆様が一所懸命取り組んでらっしゃると感じている。

第2期推進計画に沿ってこの委員会も進んでいるが、社会状況の変化も踏まえ、委員の皆様はそれぞれの地域コミュニティの立場から、見直しが必要な点や知恵とかノウハウも含めて、情報共有できる会議にしたい。

3 委員紹介

4 副委員長の選出について

近藤直志委員を副委員長に選出

5 報告・意見交換 (座長:委員長)

(1)第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の評価に係る

「「ふり返しシート」」調査報告 資料 No.1

行政施策の取組状況 資料 No.2

(事務局)一括して説明

(委員長)

ご質問、ご意見、あるいは現場からご意見とか情報共有をお願いしたい。

(A 委員)

資料を見て、ワークショップの有効性を感じた。あと、若い方の力が必要であるが、役員をされているのは退職された方が多いので、若い人等の意見を聞く機会がなかなか無い。最近、第3学区で良い取組をされたので、それを紹介いただきたい。

(B 委員)

未来創造ミーティングを令和4年3月に実施した。これまで、広域コミュニティ組織である協議会の会合は、理事により話し合いや意思決定がなされ、事業等に反映されてきた。ところが、小中学校の保護者の方にアンケートを取ったところ、「協議会の存在を知らない」とか、「事業内容を知らない」等々。一方で、「地域への愛着はある」と。また、「5～10年先を考えると消滅する町内会が出てくるのでは」というようなショッキングな回答もあった。手を打たなければと思ったが、理事会ではアイデアが出てこないし、アンケートだけでなく、生の声を聞く必要もあるだろうということで、協議会の理事や町内会長、子供育成会の方から出席いただき、今までにない年齢構成のメンバーでワークショップを実施した。若い世代の方と、理事クラスの年配の方が一堂に会して、地域の良いところとか、これからどうしていきたいか等話し合えた。年配の方の話に、若い方がうなずいたり、逆に、若い方の話に、年配者がうなずいたりが行われていて、やはり幅広い世代から意見を聞いて、今後のことを考えた方が良いので、継続してこの動きを続けていく方向で動いている。そうは言っても大所帯のため、1回目の会合に参加された数名で部会みたいなものを作り、地域に住むものとしてぎっくばらんに意見をやりとりしている。

(委員長)

私もそこに立ち会ったが、緊張感溢れる議論もあったが、互いの生の声を初めて聞いたという率直な感想が非常に多かった。別に断絶してるわけでもなく、おそらくこのコミュニティでも、そういう機会を作れないで来たのが実情と感じている。

(C 委員)

最初に、この「ふり返しシート」は、非常に貴重なデータを集めていただいた。463の単位組織から70%の回収率であるが、今後これをどう活用するか。場合によっては、必要なテーマや課題を加えて、シートをもう一度それぞれの単位組織に返してもらうなど、言ってみれば、この評価と活用が、今後非常に重要であるだろう。全体的な評価・まとめというよりも、それぞれ単位自治組織が抱えている問題をきちっとつかまえることが大事ではないか。そういうことからすると、私は、各単位自治組織のカルテのようなもの、こういうところが大変だとか、これは割と共通する部分が多いけれども、この辺の活動が優れている等々の地域カルテを作っていただきたいと思う。

それから、社会教育委員という立場で申し上げると、昨年から取り組んでる課題であるが、コミセンとか学習センターで実施している人づくり・繋がりづくり・地域づくり、こういう事業をどれだけやってるか、各組織から報告をいただいている、38組織中、回収したのは31、32であったが、大変貴重な資料で、そういう報告の中に優れた取組が見えてくる。これを市全体としてどう共有するか、この辺が非常にテーマであり、2年目である今年度にそれをまとめて、市の広報等で紹介したい。場合によっては、今回のこのシートも含めて、地域づくり特集号として取り上げていただき、市全体に報告をして、意識を醸成していくという取組も非常に大事ではないかと思う。

それから、この報告書を読んでいると、市街地と農村部で若干の課題のとらえ方の違いはあるが、他組織と交流したい、学びたい、そういう気持ちが結構出ている。研修会などでは、一杯飲みながらの交流の方が成果が上がるはずだが、コロナ禍ではなかなか大変で。何とか工夫しながら、優れた事例を共有するような取組がこれからは重要になると思っている。青年を取り込むということになると、青年部や消防団、育成会などがあるが、そういう若い人たちが主役になるような組織が自治会の中にあるか、自治会がちゃんとそれを応援してるか、こんなところもやはり感ずるわけで、コミュニティ推進課からは、優れた事例を共有する場を企画いただきたい。

そして、地域カルテを整備し、適切にアドバイスしながら、行政の方がコーディネーターになるような企画を是非考えてほしい。

(委員長)

グッドプラクティスの共有は、以前からも意見が出ているが、例えば広報はとても重要で、是非実現していただきたい。コロナ禍の地域づくりということで、皆が励まされると思う。

また、つるおかみらいフォーラムへ、毎年、200人くらいの役員の方から参加いただいているが、若い人たちも交流できるような企画も必要かなと思う。

(D 委員)

今、C 委員からあったように、成果が上がった事例を広報などで共有していくのは大事だと思う。是非とも、この資料は全市民に共有していただきたいと思うが、これだけの事例を一度に見せられると取っつきにくいところがあるので、例えば6回に分けて各地区の取組を紹介していくとか、上手いこと事例を先に提示してから課題へ移っていくとか、若い世代が読みやすいような報告の仕方で、それから、紙媒体の他にもホームページなども活用して、共有していただきたい。

もう1つ、先ほどB 委員から報告いただいた三学区の事例だが、未来創造ミーティングに参加した30代の方とお話する機会があって、その人は、「自分たちの声を聞いてもらった。自分たちの意見を言えたことをすごく新鮮に感じた」と言っていて、とても良い事例だと思うので、是非他の地区でも同じような取組をしていただきたいと思った。若い人たちも声を出したいし、聞いて欲しいと思ってる人は確実にいるので、そういう場をどうやって作るか、コミュニティで考えていただきたいと思った。

(B 委員)

C 委員やD 委員の発言に関連するが、私も今回の資料を拝見して、こんなにも多くの取組があることに正直驚き、市民の皆さんにも是非知って欲しいと思った。ただ、D 委員もおっしゃったが、これだけの量を何回かの事例発表会で発表したとして、あるいは広報に載せたとして、それでも膨大な情報量になってしまうので、消化しきれないし、なおかつ文章にまとめてしまうと、もう少し詳しく聞きたい部分も出てくるはずなので、こういう情報は、例えば、市で「地域づくり」に関するサイトを作り、誰でも閲覧できるオープンな場とし、取組例や必要な情報を継続的かつ五月雨式に流してはどうかと考えている。

(E 委員)

私が住む地区では、地域ビジョンを令和4年3月に策定したが、策定が目的ではなくて、地域との関わりの中で、いろんな世代の意見をさらに取り入れて、追加修正したり、変化・進化させて、生きたものにしていくことが大切と考えている。とても良いものが出来たので、大切に活用していきたい。

(F 委員)

朝日でスマホ教室の取組の話があった。恐らくだが、社会人大学院生の1人が携わっている事業だと認識している。このように、我々社会人大学院生は、いろいろな地域でそれぞれのテーマを持って活動をしている。先程から出ている、人的支援、担い手不足というところも、我々のような社会人大学院生は、自分の興味を持ったところで自由に動ける人が多いので、上手くコミュニティの方々と関わることができると我々としても研究なり、活動ができるし、地域の方にとっても足りない部分のサポートに繋がって、ウィンウィンの関係を築けるのではないかと。我々がどんなことをしているか、鶴岡市と共有させていただき、この委員会でさらに共有していくことができれば、外の力という観点で使っていただけないかと考えた。私もまだ鶴岡にいるので、何かそういった取組ができるようにしていきたい。

(G 委員)

資料を拝見し、各地域いろいろな課題を抱えながら、様々な取組をされていると感じた。どの地域も高齢化してなり手がいないという課題を抱えているが、鶴岡の人口は、今人口 12 万人ぐらいなんですけど、毎年 1,000 人ぐらいずつ減っていて、18 年後の 2040 年には約 9 万人を切るという推移予測の資料を見た。今から若手が増えるという展開は厳しいと予測される中、人口減少とか高齢化がどんどん進んでいくと、福祉とか防災がどんどん弱くなっていく。今後、よりしっかりコミュニティを繋いでいくために、メールアドレスや電話番号を登録いただき、緩くその地域で繋がる。有事の時には、すぐに情報提供とか連絡がとれる手段を今から整備しておく必要があるのかなと今回報告を聞いて感じた。

(H 委員)

私の住む地区でも、今年 5 月によく地域ビジョンを策定した。2 年前から検討会委員会を立ち上げて取り組んだが、コロナ禍で集まることも難しい状況は非常にもどかしく、そのため時間も少しかかった。そういう中、市のコミュニティ推進課や農山漁村振興課、県庄内総合支庁の農村計画から支援をいただき、ファシリテーター的なことをやっていただいて、何とか出来た。地元の我々だけでは、ビジョンをまとめるのが難しいので、行政サイドの支援は非常に有難かった。また、ビジョン作る上で、若い世代とか女性の方々を巻き込んだ計画作りに臨んだが、コロナ禍ということもあり、その辺がちょっと難しかったかなということと、交流という意味では、飲みニケーションでぎくばらんに話ができたらもっといろいろな考え方も出てきたのかなと思ったりして、時期的に容易でなかったと思う。今年 6 月に、住民向けの策定報告会を行い、関係者含めて 50 名ほどの参加であったが、この計画をきっちり共有して、住民が自分ごととして計画を実行する中で関わってもらおう。先ほど I 委員の地区では、自治会の事務局だとか役員ではなく、住民が主体になって地域をつくりやっていると紹介されたが、まさにそういう形で、住民、特にその次を担う若い世代を巻き込んで計画を実施していくことがこれからの大きな課題である。作って終わりではなく、本当にそれを実行していくことがこれから課題であるし、今年、市の鶴岡地域まちづくり未来事業の募集にも手を挙げていて、SNS を使った地域づくりを計画しているところである。

(I 委員)

(私の住む地区では)ビジョンが完成して 4 年間やってきたので、来年は 1 年かけて、「地区をどういうふうにしていくか」、ふり返りの年になる。8 年くらい前までは、地区の役員の平均年齢は 75 歳以上で、若い方は役員になれない、発言の機会を持つことができない地域だった。それを変えたいと言ったのが前の会長で、ビジョン策定のメンバーも 30 名ほどいるが、8 割くらいは若い方で、若いと言っても 40 代・50 代で活動している。ただ、若い人オンリーで事業をするのではなく、ベテランの意見も取り入れながら地域づくりをしている。

今一番の問題は、小学校が 5 年前に閉校したことに伴い、地元には学校がないから、地域のイベントには参加しないという状況になっている。以前は、地域に小学校があったので、PTA の方たちも地域のイベントに協力してくれていた。市では、「地域づくりやってください」「ビジョン作ってください」「若い人を巻き込んで地域づくりしてください」と言うが、実際そんなことできないというのが正直な課題である。そんな中、私の次の作戦は、今の 20 代の若者の親世代に協力してもらい、今の PTA の方々を地域に興味を持つように引っ張ってもらおうことを考えている。まずは、地域に興味を持っていただき、ビジョンの事業にも入っていただいて、今後継続してやっていけたらと思っている。

一方で、まち歩きガイドさんも 70 代が多く、地域で一番活動しているのは 70 代の方々。体協は 40

代の役員が多いが、50代・60代になると地域に出てこなくなると、何故かと言えば、親から「お前はまだ地域に出なくていい。自分達もそうやってきた」と言われたりして、地域に出る機会がない方が多いのだろうと思い、今、何か活動する時はなるべく50代・60代に声掛けして、一緒にイベント運営する形でやっている。

どちらにしても、コミセン職員が土台を作り、慣れてきたら、地域の方々にお渡しして意見を募る。意見が詰まったときにはコミセン職員がアドバイスしたり、コミセン職員も詰まったときには市に相談したりしながら、なるべく住民主体で地域の方々は今やりたいことを出来るよう、アドバイスしながら進めている。やりたいことが実行できた時、地域のテンションは上がるので、そういう成功体験を繰り返して行って、地域づくりに繋げていく、ビジョン事業を進めていくということを地区では進めている。ビジョンを策定したら課題全て解決するわけではなく、むしろ、毎年2、3個ずつ増えていて、その都度、考えたり、試したり、失敗したらまた別の作戦を練ったり…というようなことを365日やっている。資料に戻って、先ほど朝日地域で、単位組織の財産管理の見直しということで、自治会事業を見直し、会費を減額したとあったが、町内会費というか、自治会会費を削減したのか。

(朝日庁舎)

資料No1の42頁の一番上の部分について、平たく言うと、コロナ禍ということで、反省会とかそういった事業についての経費が少なくなったため、会費を減額したと聞いている。それ以外の維持管理等については、基本的に同じ形で現在も集金していると伺っている。

(J 委員)

地域活動を進めていく上での課題や取組状況の報告を伺って、コロナの影響が非常に大きかったことをまず感じた。2年程活動がかなり制限されてきたが、それが終わりつつあるところで、今後どんな活動を展開していくかという状況である。元の活動に戻るといよりは、そういうことを踏まえて、何か大きく変わろうとしている、変えていこうとすると感じた。そういう意味で、この地域の自治会活動で必要なものは何だったのか、昔から惰性でやってきただけの活動か、本当に必要な活動か、厳選されようとしている印象を受けた。

少し話がそれるが、私は農村社会学を若干かじっていて、私が大事だと思う研究成果の一つに、江戸時代の末ぐらいから昭和の戦前ぐらいまでの間に、農村集落の中の人と人との繋がりがどう変わってきたかという研究があり、結論から言うと、かなり大きく変わってきたのだが、農業技術の変化とか、周辺環境の変化によって人々の繋がりが大きく変わってきたという話がある。我々には、昔の人々の繋がりは固定的だったと見えているかもしれないが、実は、昔の人々の繋がりが大きく変わってきていて。人と人との繋がりは、繋がりそのものが大事なのではなくて、何か目的を達成するために必要なのが繋がりでと思うので、例えば、農業という目的など、その何かの目的に向かって必要になっている繋がりが、コロナをきっかけに大きく変わって行く過程にあるのかなと感じている。

(委員長)

ビジョンを策定されている地域はまさにそのあたり、どんな目的を達成しようとしているのか、意見を集め、検討して、合意形成している。目的が少し曖昧だったり、ただ繋がりたい、繋がればいいみたいに目的が定まっていない地域もあるかもしれないので、重要な視点である。

(K 委員)

具体的な取組例の一つに、「地域共生社会の実現に向けた地域支えあいプランの推進」があり、この支えあいプランについて補足的に説明すれば、鶴岡地域の21学区地区と、藤島・羽黒・櫛引・朝日・

温海のそれぞれの地域において、地域特性を踏まえた住民主体の福祉活動を推進するための小地域福祉活動計画として策定されたものである。具体的な取組として、避難所一覧を全戸配布して地域ぐるみの防災福祉のまちづくりを進めたり、高齢一人暮らし世帯の避難ネットワークづくりや、町内会や民生委員など地域住民の相互連携による日常生活見守りネットワーク、除雪サポート隊の仕組みづくりなど様々な取組が計画されているが、やはりコロナ禍に伴う活動自粛により、取組が進んでいない状況もあり、各地域における福祉委員会等においてプランの進行管理と評価の見直しを行っているところである。

(L 委員)

J 委員の話聞いて、地域の伝統は、昔からあるものを守っていかなければいけないとか、やらなければいけないばかりに目線が向いてしまうが、目的達成のための繋がりという新たな視点で、また新しい伝統を繋いでいくためのブラッシュアップに繋がっていけばと思った。今日、勉強させていただいたことを周りの人たちにも伝えていきたいと思う。

(M 委員)

櫛引には広域コミュニティ組織が無いが、抱えてる課題は他地域の単位自治組織と同じと感じた。加えて、地域には 21 集落あるが、遜色ない事業を行っているとも感じており、生涯学習センターが機能していると再認識した。今日、お聞きしたことを、これからの広域コミュニティの検討に生かしていきたい。

(N 委員)

昨年度の第 2 回目委員会は、コロナで中止になった。送付された資料には、良い取組が多くまとめられていたのに、広域コミュニティ組織には共有されていないようであったので、今回のとりまとめた内容につきましては、いろんな方法を駆使して、各振興会、それから単位自主組織の方に伝わるような形で提供いただきたい。

(委員長)

今日は、かなりいろいろ前向きなご意見をいただきました。時代が大きく変化していて、コミュニティは待ったなしで、動く機運が高まっていると感じた。今こそ、いろいろな情報や成果を活用するために、共有が大きな課題になっている。情報発信の方法についても、委員の皆様のご提案をご検討いただければと、私からもお願いしたい。

(2)その他
特になし

6 閉会

(市民部長)

人口減少、少子高齢化、加えてコロナという状況の中、コミュニティ活動、地域づくり、人づくりがしにくい状況にある。ただ、「ふり返しシート」を見ると、その中でもいろいろ工夫して様々な活動がされていて、やはり地域の力は強いんだなと思うところである。

市では、地域ビジョンづくりとその実現を推進しており、皆さんご承知の通り、地域ビジョンを作るにあたり、多くの方から参加いただき、作り上げていくプロセスが非常に大切であるし、そういったプロセスを経ることで、地域がより身近に、そして自分ごととして考えられるような人づくり、担い手づくりに繋がっていくものと考えている。また、デジタル化も進んでいるため、いろいろなツールを活用して情報を共有することが非常に大切であると感じたところである。